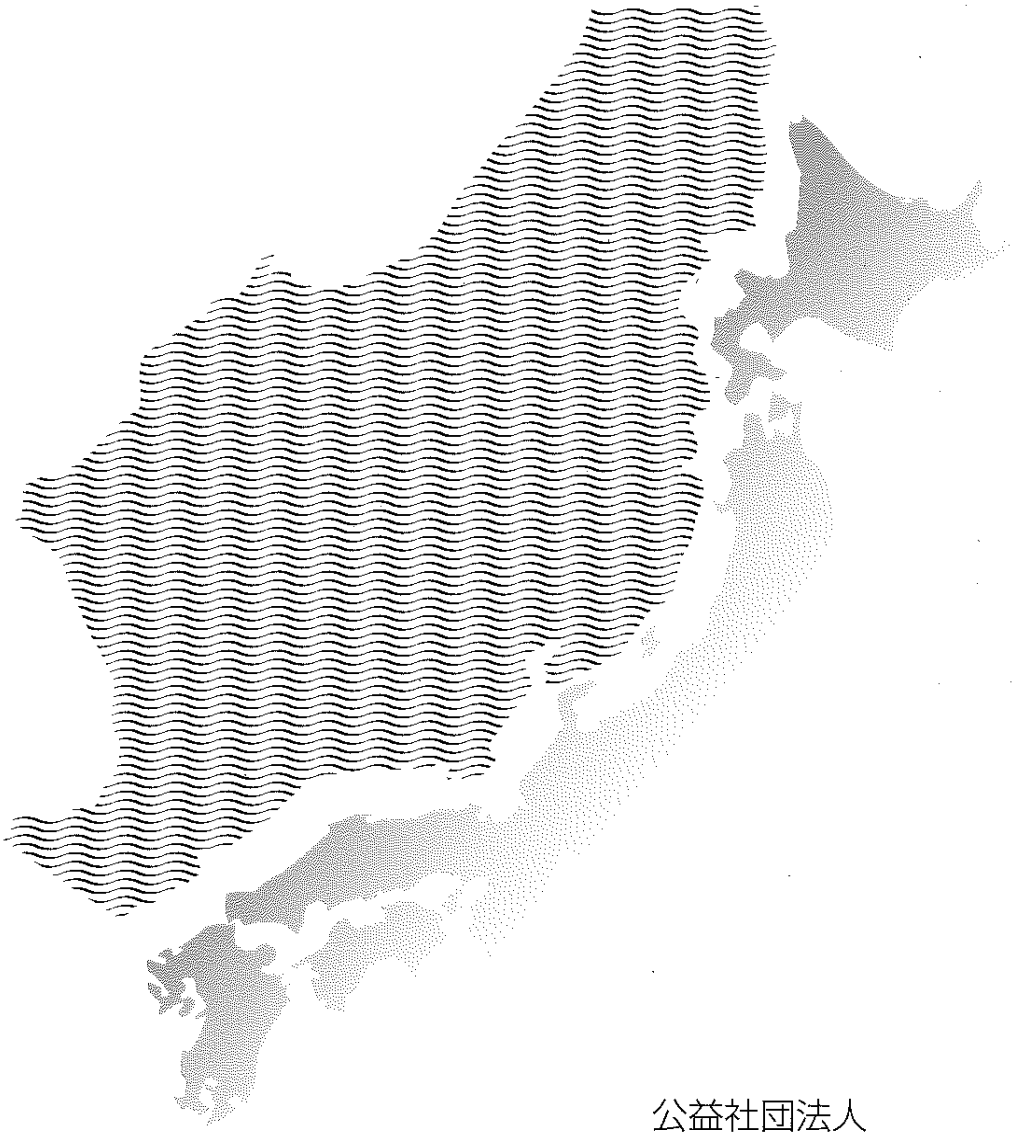
会報

第115号



公益社団法人
日本海海難防止協会

目　　次

Ⅰ　事　業　報　告

Ⅰ－１　調査研究 1

１　新潟港(東港)大型客船入出港に係る航行安全調査 1

1-1　第２回作業部会 1

1-2　第３回調査会 1

２　日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究(秋田県・山形県地区) .. 2

2-1　第１回委員会 2

３　ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査 3

3-1　第１回調査会 3

Ⅰ－２　海難防止の周知宣伝 4

１　平成 27 年度事業推進連絡会議 4

２　全国海難防止強調運動の推進 5

2-1　日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議 5

2-2　東北地方海難防止強調運動推進連絡会議 7

2-3　海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議 9

Ⅱ　会　務　報　告

Ⅱ－１　平成 27 年度第１回理事会 10

Ⅱ－２　平成 27 年度通常総会 12

Ⅱ－３　平成 27 年度第２回理事会 15

Ⅱ－４　業務日誌抄 16

Ⅱ－５　業務予定 17

Ⅲ　寄　　稿　　欄

舞鶴の神様たち（笠水(かさみず)神社） 18

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究

１　新潟港（東港）大型客船入出港に係る航行安全調査

調査会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）大津　皓平　　東京海洋大学　名誉教授

久古　弘幸　　一般社団法人日本船長協会　副会長

西村　陽造　　新潟水先区水先人会　会長

（前）武石　実徳　　新潟港船舶代理店会　事務局

（株式会社リンコーコーポレーション東港支社　船舶業務部長）

（後）信田　拓志　　〃　　（平成 27 年５月 11 日以降）

伊藤　則彦　　日本海曳船株式会社　常務取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部　交通部

新潟海上保安部

北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所

新潟地方気象台

1-1　第２回作業部会

(1)　開 催 日：平成 27 年６月８日（月）

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　議　　題：

①　第２回調査会の質疑・対応について

②　第２回ビジュアル操船実験結果について

③　航行安全対策（案）について

1-2　第３回調査会

(1)　開 催 日：平成 27 年６月 25 日（木）

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　議　　題：

①　第２回調査会の質疑・対応について

②　第２回ビジュアル操船実験結果について

③　航行安全対策について

④　報告書構成案について

2　日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究（秋田県・山形県地区）

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）日當　博喜　　海上保安大学校　名誉教授
越當　雄二　　日本小型船舶検査機構　仙台支部長
三浦　　完　　日本小型船舶検査機構　青森支部長
佐伯　　優　　秋田船川水先区水先人会　会長
松浦　安洋　　酒田水先区水先人会　会長
藤田　博英　　秋田県漁業協同組合　代表理事組合長
五十嵐安哉　　山形県漁業協同組合　代表理事組合長
齋藤　修市　　秋田県小型船舶安全協会　会長
齋藤　賢作　　山形県小型船舶安全協会　会長
宮崎　一雄　　株式会社マリーナ秋田　代表取締役専務
佐藤　廣之　　鼠ヶ関マリーナ　ハーバーマスター
高桑　幸蔵　　ビーエルエス東北　代表

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部
秋田海上保安部
酒田海上保安部
東北運輸局　秋田運輸支局
東北運輸局　山形運輸支局（酒田庁舎）
水産庁　新潟漁業調整事務所
秋田地方気象台
山形地方気象台
秋田県　農林水産部　水産漁港課
山形県　庄内総合支庁　産業経済部　水産振興課

2-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：平成 27 年７月９日（木）
(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田
(3)　議　　題：
①　調査研究の計画（案）について
②　対象海域の特性（気象・海象）について
③　小型船舶等の現況について
④　海難の状況について
⑤　気象・海域情報の提供状況について

３　ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査

調査会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）大津　皓平　　東京海洋大学　名誉教授

久古　弘幸　　一般社団法人日本船長協会　副会長

西村　陽造　　新潟水先区水先人会　会長

伊藤　則彦　　日本海曳船株式会社　常務取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部　交通部

第九管区海上保安本部　警備救難部

新潟海上保安部

新潟県　新潟地域振興局　新潟港湾事務所

3-1　第１回調査会

(1)　開 催 日：平成 27 年８月７日(金)

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　議　　題：

①　調査・検討の計画について

②　新潟港周辺の津波想定について

③　係留中のＬＮＧ船の状況について

④　緊急離桟ビジュアル操船実験方案について

Ⅰ－２　海難防止の周知宣伝

１　平成27年度事業推進連絡会議

(1)　開 催 日：平成27年６月３日(水)
(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
(3)　出 席 者：別記のとおり
(4)　議　　題：
　①　航行安全及び海難防止に関する調査研究について
　②　海難防止に関する周知宣伝について
　③　船舶の航行安全に関する情報提供について
　④　その他

別　記

出席者名簿

（順不同・敬称略）

第二管区海上保安本部	交通部	安全課　安全対策調整官	守屋　研一
第八管区海上保安本部	交通部	安全課　専門官	兒嶋誠二郎
第九管区海上保安本部	交通部	安全課長	佐藤　　博
〃	〃	安全課　専門官	大久保　慎
〃	〃	〃　海務係	竹原　佳佑
〃	海洋情報部	監理課長	長野　勝行
〃	〃	監理課　専門官	木下　英樹
(公財)海上保安協会新潟地方本部	事務局長		髙野　成二
新潟県水難救済会	事務局長		西片富士夫
(公社)日本海海難防止協会	事業部長		安藤　眞博
〃	事業部	副部長	高野　　修
〃	〃	主任研究員	檜ヶ谷正道
〃	〃	調査員	花棚　景子

２　全国海難防止強調運動の推進

2-1　日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議

(1)　開 催 日　平成 27 年６月 12 日(金)

(2)　場　　所　新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　出 席 者　別記のとおり

(4)　会議次第

①　主催者挨拶　第九管区海上保安本部　交通部長

②　議　　事

平成 27 年度日本海中部地方海難防止強調運動実施計画

③　連絡事項

イ	第九管区海上保安本部　交通部	第九管区海上保安本部の取り組み
ロ	新潟海上保安部　交通課	新潟海上保安部の活動計画
ハ	北陸信越運輸局　海事部	小型船舶に対する安全キャンペーン
ニ	信越総合通信局　無線通信部	人命・財産を守る無線通信の確保
ホ	新潟漁業調整事務所	水産庁が行う漁船海難防止のための取り組み
ヘ	新潟地方気象台	地方海上分布予報
ト	その他	

別　記

出席者名簿

（順不同・敬称略）

構成機関・団体		役　職　等	氏　　名
官公庁機関	信越総合通信局 無線通信部	航空海上課長	鈴木　一司
	北陸信越運輸局 海事部	首席運航労務監理官	木村　一美
	北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所	沿岸防災対策官	鈴木　幸一
	新潟地方気象台	気象防災情報調整官	林　　秀明
	新潟漁業調整事務所	漁業監督課長	鈴木　光夫
		漁業監督課　漁業取締係長	松田なつき
	新潟県 防災局	危機対策課　参事	小島　敏行
	新潟県警察本部 地域部	地域課　船舶係長	大戸　　悟
関係団体	船員災害防止協会 北陸信越支部	事務局長	江口　　孝
	公益社団法人 北陸信越海事広報協会	事務局長	大井戸佐紀夫
	北陸信越旅客船協会	常務理事	竹谷　耕作
	一般財団法人 日本気象協会 新潟支店	支店長	小野　和也
	日本小型船舶検査機構 新潟支部	支部長	佐藤　　忠
	一般社団法人 日本海事検定協会 新潟事業所		（欠）
	全日本海員組合 新潟支部		（欠）
	新潟県港湾協会	事務局 （新潟県港湾整備課　主任）	杉山　亜矢
	新潟県水難救済会	事務局長	西片富士夫
	新潟県漁業協同組合連合会	専務理事	清田　邦之
	新潟内航海運組合	事務局長	山田　一則
	新潟水先区水先人会	会長	西村　陽造
	新潟海洋少年団	副団長	荒木　一男
	ＰＷ安全協会 新潟支部	事務局 （㈱マリン商事　タネムラマリーナ）	田村　　薫
	新潟県セーリング連盟		（欠）
主催	第九管区海上保安本部　交通部	交通部長	伊藤　恒治
		安全課長	佐藤　　博
		安全課　専門官	大久保　慎
		安全課　海務係長	金谷　英明
		安全課　海務係	竹原　佳佑
	警備救難部	救難課　計画係長	渡邊　　均
	新潟海上保安部	交通課　安全係長	佐々木貴幸
		交通課　航行管理官付	今野　拓也
	公益財団法人 海上保安協会 新潟地方本部	事務局長	髙野　成二
	公益社団法人 日本海海難防止協会	事業部長	安藤　眞博
		事業部副部長	高野　　修
		事業部	花棚　景子

（事務局：公益社団法人 日本海海難防止協会）

2-2　東北地方海難防止強調運動推進連絡会議

(1)　開 催 日　平成 27 年６月２日(火)

(2)　場　　所　塩釜市　塩釜港湾合同庁舎

(3)　出 席 者　別記のとおり

(4)　次　　第

①　出席者代表挨拶　第二管区海上保安本部長

②　出席者紹介

③　議長挨拶

④　議　　案

イ　第１号議案　平成 26 年度事業報告及び収支決算について

ロ　第２号議案　平成 27 年度事業計画案及び収支予算案について

ハ　その他

別　記

出席者名簿

（順不同・敬称略）

団体・機関名	代表者	出席者
船員災害防止協会東北支部	支部長　湯村　健介	事務局長　阿部　幸一
全日本海員組合東北地方支部	地方支部長　髙橋　雅幸	地方支部長　髙橋　雅幸
東北漁業無線協会	会長　佐藤　亮輔	欠席
東北港運協会	会長　大矢　卓	欠席
東北内航海員組合	理事長　湯村　健介	専務理事　石井　英和
東北旅客船協会	会長　佐藤　昭夫	専務理事・事務局長 佐藤　健彦
一般社団法人　日本マリン事業協会東北支部	支部長　藤崎　雅実	支部長　藤崎　雅実
NPO 法人 ﾊﾟｰｿﾅﾙｳｵｰﾀｰｸﾗﾌﾄ安全協会東北地方本部	本部長　中西　宏紀	本部長　中西　宏紀
公益社団法人　東北海事広報協会	会長　佐藤　昭夫	会長　佐藤　昭夫
一般財団法人　日本海洋レジャー安全・振興協会東北事務所	所長　髙橋　　猛	欠席
一般財団法人　日本気象協会東北支局	支局長　佐伯　芳	総務課長　金丸　努
株式会社　日本船舶職員養成協会東北	代表取締役　髙橋　雅洋	代表取締役　髙橋　雅洋
日本船用機関整備協会東北支部	支部長　荒井　誠二	事務局長　伊藤　隆雄
公益社団法人　日本海海難防止協会	会長　坪井　鈴兒	事業部長　安藤　眞博
公益財団法人　海上保安協会東北地方本部	本部長　太田　喜一郎	本部長　太田　喜一郎
一般社団法人　日本埋立浚渫協会東北支部	支部長　柳田　良一	事務局長　寒河江　利廣
青森県海難防止強調運動推進連絡会	会長　赤石　憲二	指導部次長　松谷　誠 青森海上保安部交通課長 松元　勝治 八戸海上保安部交通課長 阿部　富二
岩手地区海難防止強調運動推進連絡会議	議長　上村　勝利	釜石海上保安部交通課長 相馬　雅
宮城地区海難防止強調運動推進連絡会議	議長　松浦　富雄	議長　松浦　富雄 宮城海上保安部交通課長 富岡　忠幸
秋田県海難防止強調運動推進連絡会議	議長　山本　健藏	秋田海上保安部交通課長 田中　良喜
山形県海難防止強調運動推進連絡会議	議長　宋　　雄司	酒田海上保安部交通課長 矢作　誠
福島県海難防止強調運動推進連絡会議	議長　中村　育世	福島海上保安部交通課長 菊池　孝夫
東北総合通信局	局長　竹内　芳明	無線通信部航空海上課 上席電波検査官 高澤　三男
東北地方整備局	局長　縄田　正	港湾空港防災・危機管理課長 佐藤　久和
東北運輸局	局長　永松　健次	海上安全環境部調整官 石川　光人
仙台管区気象台	台長　長谷川　直之	気象防災予報課長 渡辺　真二
運輸安全委員会事務局 仙台事務所	所長　岡田　信雄	事故調査調整官　渡辺　健
仙台地方海難審判所	所長　阿部　房雄	書記官　髙田　浩樹
第二管区海上保安本部	本部長　岩並　秀一	本部長　岩並　秀一 交通部長　上山　伸二

2-3　海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議

(1)　開 催 日　平成 27 年 6 月 16 日(火)

(2)　場　　所　舞鶴市　舞鶴グランドホテル

(3)　出 席 者　別記のとおり

(4)　会議次第

①　開式の辞

②　議長挨拶

③　第八管区海上保安本部長挨拶

④　議題

イ　平成 26 年度の海難防止強調運動の実施状況について

ロ　平成 26 年の船舶海難発生状況について

ハ　平成 27 年度日本海西部地方海難防止強調運動実施計画等の策定について

ニ　その他

別　記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

構成員		
	日本海西部地方推進連絡会議　議長	西　川　順之輔
	福井地区　代表	藤　田　紀　雄
	京都地区　代表	松　本　直　樹
	兵庫北地区　代表	眞　野　　豊
	境地区　代表	白　須　邦　夫
	石見地区　代表	宮　下　義　重
	第八管区海上保安本部長	檜　垣　幸　策
	公益社団法人日本海海難防止協会　会長代理	安　藤　眞　博
	公益財団法人海上保安協会舞鶴地方本部　事務局長	一　瀬　光　孝
海上保安庁関係職員		
	第八管区海上保安本部　交通部長	髙　野　昌　浩
	〃　警備救難部　救難課長	田　中　慎一郎
	〃　交通部　安全課長	小　川　義　明
	〃　〃　企画課長補佐	西　澤　伸　広
	〃　〃　安全課専門官	兒　島　誠二郎
	敦賀海上保安部　交通課長	寺　﨑　真　司
	舞鶴海上保安部　交通課長	岩　崎　信　之
	境海上保安部　交通課長	山　崎　泰　志
	浜田海上保安部　交通課長	上　村　公　一
事務局		
	公益財団法人海上保安協会舞鶴地方本部	

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　平成 27 年度第１回理事会

１　開 催 日　平成 27 年５月 19 日(火)

２　場　　所　新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号
　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

３　理事の現在数、出席者数
(1)　理事の現在数　　23 名
(2)　出席者数
イ　出席理事　　15 名
ロ　監　　事　　1 名

４　議事次第
議　案
決議事項
第１号議案　規程の改正案について
第２号議案　平成 26 年度の事業報告及び決算の書類の承認について
第３号議案　役員候補者の選任について
第４号議案　顧問の委嘱について
第５号議案　総会の日時、場所及び目的である事項の決定について

報告事項
業務を執行する理事の職務の執行の状況について

５　議事の経過及びその結果
(1)　定足数の確認
事務局から定款第 38 条に定める定足数を満たしている旨の報告がなされた。

(2)　議長及び議事録の署名
定款第 37 条の規定に基づき坪井会長が議長となり、議事録の署名は定款第 42 条の規定に基づき、坪井会長（代表理事)、鑓水監事とした。

(3)　議案の審議状況及び議決結果等

第１号議案
議長の求めに応じ、事務局から改正案について説明した。
第１号議案の決議を求め、「役員の報酬等及び費用に関する規程」及び「入会及び退会規程」の改正案について、出席理事全員異議なく両案とも原案のとおり可決、総会に上程することに決した。

第２号議案

議長の求めに応じ、事務局から平成 26 年度の事業報告及び決算の書類について説明し、鑓水監事より監査報告が行われた。

第２号議案の決議を求め、出席理事全員異議なく平成 26 年度の関係書類は承認され、総会に上程することに決した。

第３号議案

役員候補者の選任については、出席理事全員異議なく添付の「役員候補者名簿」のとおり総会の承認を得ることに決した。

第４号議案

顧問の委嘱については、出席理事全員異議なく原案のとおり委嘱することに決した。

第５号議案

総会の日時、場所及び目的については、出席理事全員異議なく原案のとおり決定し、総会に出席できない正会員については、書面による議決権の行使、または代理人による議決権の行使が了承された。

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について事務局から報告した。

Ⅱ－２　平成 27 年度通常総会

１　開 催 日　平成 27 年６月 22 日(月)

２　場　　所　新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号
　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

３　正会員総数及び定足数
総数　220 名、定足数　110 名

４　出席者数及び出席役員等
(1)　出席正会員　　50 名(うち代理出席者 17 名)
(2)　書面表決（賛成）正会員　149 名
(3)　来賓
第九管区海上保安本部長　大根　潔　様
北陸信越運輸局長(代理：海事部長　辻村　一郎　様)

５　挨拶等
坪井会長の挨拶に続いて、来賓の第九管区海上保安本部本部長と北陸信越運輸局海事部長から祝辞があった。

６　議　案
決議事項
第１号議案　規程の改正について
第２号議案　平成 26 年度の事業報告及び決算の書類の承認について
第３号議案　役員の選任について

報告事項
平成 27 年度事業計画及び収支予算等について

７　議事の経過及びその結果
(1)　定足数の確認
事務局から定款第 18 条に定める定足数を満たしている旨の報告がされた。

(2)　議長及び議事録
定款第 16 条の規定に基づき坪井会長が議長となり、議事録には、議長及び西村理事、渡邊理事が署名又は記名押印することとした。

(3)　議案の審議状況及び議決結果等
第１号議案
議長の求めに応じ、事務局から改正案について説明した。
第１号議案の決議を求め、「役員の報酬等及び費用に関する規程」及び「入会

及び退会規程」について、全員異議なく両案とも原案のとおりの可決、改正することに決した。

第２号議案

議長の求めに応じ、事務局から平成 26 年度の事業報告及び決算の書類について説明し、髙橋監事より監査報告が行われた。

第２号議案の決議を求め、全員異議なく平成 26 年度の関係書類は承認された。

第３号議案

議長から「役員候補者名簿」のとおり役員を選任することの可否を求め、全員異議なく添付の別紙「役員候補者名簿」のとおり選任することに決した。

なお、役員の任期は、定款第 27 条の規定により、平成 29 年開催の通常総会の終結の時までである旨を告げた。

また、新役員は全員就任を承諾した。

報告事項

議長から平成 27 年度事業計画及び収支予算等については、平成 27 年３月 17 日に開催した理事会において承認された旨を告げ、資料に基づき平成 27 年度事業計画及び収支予算等を事務局から報告した。

☆　役員の選任

平成27年6月22日に開催された平成27年度通常総会において、新役員の選任が行われました。

新役員名簿は以下のとおりです。

役　員　名　簿

（任期：平成２７年度通常総会終了時～平成２９年度通常総会終了時）

（順不同・敬称略）

【理事】

理事	細川英邦	株式会社細川産業　代表取締役	重任
理事	西宮公平	秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長	重任
理事	松浦安洋	酒田水先区水先人会　会長	新任
理事	五十嵐由之	東和造船株式会社　代表取締役	重任
理事	木村邦彦	東北電力株式会社東新潟火力発電所　副所長	重任
理事	木村好孝	東亜建設工業株式会社北陸支店　支店長	重任
理事	清田邦之	新潟県漁業協同組合連合会　専務理事	重任
理事	安藤眞博	公益社団法人日本海海難防止協会	新任
理事	佐藤賢一	佐渡汽船株式会社　常務取締役海務部長	重任
理事	志田知隆	株式会社加賀田組　常務執行役員営業本部長	重任
理事	立石晶	株式会社植木組　取締役常務執行役員土木本部長	重任
理事	田中紳	東洋建設株式会社新潟営業所　所長	重任
理事	南波秀憲	株式会社リンコーコーポレーション　専務取締役 運輸本部長　東港支社長	新任
理事	西村陽造	新潟水先区水先人会　会長	重任
理事	宮村隆夫	北越物流株式会社　顧問	重任
理事	八島進	日本海エル・エヌ・ジー株式会社　取締役社長	重任
理事	渡邊哲	株式会社本間組　土木事業本部　部長	重任
理事	針山健二	伏木海陸運送株式会社　代表取締役社長	重任
理事	木下博	七尾水先区水先人会　会長	新任
理事	坂本和彦	株式会社三国　代表取締役社長	重任
理事	西川順之輔	京都府漁業協同組合　代表理事組合長	重任
理事	坂口恒久	境水先区水先人会　会長	重任
理事	宮下義重	浜田港運株式会社　取締役会長	重任

【監事】

監事	髙橋晧	富士運輸株式会社　専務取締役	重任
監事	水野雄司	日本海曳船株式会社　専務取締役	新任

Ⅱ－３　平成 27 年度第２回理事会

１　開 催 日：平成 27 年６月 22 日(月)

２　場　　所：新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号
　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

３　理事の現在数、出席者数

(1)　理事の現在数　　23 名

(2)　出席者数

イ　出席理事　　18 名

ロ　監　事　　２名

４　議　案

決議事項

第１号議案　業務執行理事の選定について

第２号議案　常勤役員の報酬の承認について

５　議事の経過及びその結果

(1)　定足数の確認

事務局から定款第 38 条に定める定足数を満たしている旨の報告がなされた。

(2)　議長及び議事録

定款第 37 条第２項の規定に基づき出席理事の互選で南波理事が議長となり、議事録には代表理事及び髙橋監事、水野監事が署名又は記名押印することとした。

(3)　議案の審議状況及び議決結果等

第１号議案

議長の求めに応じ、事務局から業務執行理事候補者について説明した。

第１号議案の決議を求め、出席理事全員異議なく、添付の別紙「業務執行理事候補者名簿」の通り、代表理事会長に南波秀憲理事を、副会長に西宮公平理事、針山健二理事、宮下義重理事を、専務理事に安藤眞博理事を選定することに決した。

第２号議案

議長から常勤役員である安藤専務理事は、総務部長職を兼務し、給与を支給することから、本人の申し出もあり、役員報酬は支給しないこととで了承を求め、出席理事全員意見なく専務理事の無報酬を承認した。

Ⅱ－４　業務日誌抄

（平成 27 年５月～８月まで）

月　　日	内　　容
５月 19 日(火)	平成 27 年度第１回理事会　（新潟市）
６月　２日(火)	平成 27 年度東北地方海難防止強調運動推進連絡会議　（塩釜市）
６月　２日(火)	平成 27 年度防災気象連絡会　（新潟市）
６月　３日(水)	平成 27 年度事業推進連絡会議　（新潟市）
６月　８日(月)	新潟港(東港)大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回作業部会　（新潟市）
６月 12 日(金)	平成 27 年度日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議　（新潟市）
６月 15 日(月)	平成 27 年度二水会例会　（新潟市）
６月 16 日(火)	平成 27 年度海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議　（舞鶴市）
６月 22 日(月)	平成 27 年度通常総会及び平成 27 年度第２回理事会　（新潟市）
６月 24 日(水)	平成 27 年度第１回船員災害防止連絡会議　（新潟市）
６月 25 日(木)	新潟港(東港)大型客船入出港に係る航行安全調査　第３回調査会　（新潟市）
７月　９日(木)	日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究(秋田県・山形県地区)　第１回委員会　（秋田市）
８月　７日(金)	ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査　第１回調査会　（新潟市）
８月 20 日(木)	平成 27 年度第２回船員災害防止連絡会議　（新潟市）

Ⅱ－５　業務予定

(1)　ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査

第２回調査会	11 月上旬

(2)　新潟ＬＮＧバースのおける新形式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査

第１回委員会	９月下旬
ビジュアル操船実験	10 月下旬
作業部会	11 月中旬

(3)　金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査

第１回委員会	10 月上旬
ビジュアル操船実験	11 月下旬

(4)　敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査

第１回委員会	10 月上旬
第１回作業部会	11 月上旬
第１回委員会	11 月下旬
ビジュアル操船実験	12 月上旬

(5)　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査

第１回委員会	10 月中旬
第２回委員会	11 月下旬
ビジュアル操船実験	12 月下旬

(6)　会報第 116 号発行　　12 月下旬

Ⅲ　寄　稿　欄

舞鶴の神様たち（笠水（かさみず）神社）

元舞鶴事務所長　山本　勝眞

今回は「笠水神社」を紹介します。国道２７号線は、東西舞鶴を貫通する幹線道路ですが、この国道２７号線に沿って、綾部方面から舞鶴市内に入ってくると、まず西舞鶴地区に差し掛かります。西舞鶴市内に入りますと、北近畿タンゴ鉄道の線路をまたぐ跨線橋があるのですが、跨線橋の下、西側に笠水神社は鎮座されています。舞鶴市引土（ひきつち）というところです。

笠水神社神域

神社前の道路は、一方通行になっていますので、跨線橋の手前から国道を降りて神社前の道路に入らないと、跨線橋を通過してから近づくのは大変です。

神社境内は平坦で、神社前の道路からの距離もないので、楽にアプローチできます。

入口に石灯籠があり、「明神形」の石造り鳥居をくぐると木立の中に、神社本殿を見ることができます。

この神社は、一般的に「笠水神社」（カサミズジンジャ）と呼ばれていますが、「宇介美都」（ウケミズ）あるいは「真名井」（マナイ）とも呼ばれるということが、境内入口の、神社を紹介した小さな案内板に書いてありました。「舞鶴百選」の標柱もありますので、舞鶴市内では名所となっているようです。

同じ案内板によると、祀られている神様は、海に関係した「笠水彦」の神と「笠水姫」の神で、先史時代に丹後一円で勢力を誇った、海部族の海部直（うみべのあたい）の祖神とありますから、海を支配された海賊だったと思われます。

もっとも海賊といっても、今日にいう悪党ではなく、海の上で勢力をふるう豪族（村上一族とか住吉さんのような存在）だったのでしょう。

「直」は「国造」と同様、大和朝廷時代、地方豪族に与えられた姓で、いわば地方官僚のようなものですから、盗賊集団のようなものではなく、社会的に高い地位にあった人たちです。海部族の長として尊敬されていたことは、容易に想像できます。

ご本殿と脇宮（いずれも覆い屋）

この神社、今は、海からはなれた内陸側に鎮座されていますが、昔、この地は、池内、真倉、高野の３つの川の合流点であり、この辺りまで海岸だったとも、紹介されていますので、現在は海辺になくても、不自然ではありません。

ご本殿

本殿は、市内各社のご多聞にもれず覆い屋で保護されていて、中をのぞくと、神社形式は春日造りか書院造り（海に関係するということで、あるいは住吉さんと同じような作りかもしれませんが・・・）を思わせる美しい建造物で、正面３枚の扉には菊の御紋章の透かし彫りが施してあります。屋根は「柿葺き」です。

覆い屋の屋根は、鉄板張りのようでしたが、その覆い屋も立派で、「千木」や「鰹木」がちゃんと載せられています。

本殿に向かって右隣りに、本殿と接して脇宮があり、これも覆い屋に護られ「天照皇大神」が祀られています。

脇宮の神社形式は、伊勢神宮と同じ日向系の造りで、「平入り」「柿葺き」の美しい祠です。

脇宮の祠

小さいながらも、脇宮としては大変立派で、屋根には、「千木」も「鰹木」も施工されています。

ただ、「千木」が外削ぎ、「鰹木」が７本（奇数）と、男神様を祀る特徴を示しているので、私的には「天照皇大神？」と少々疑問を持たざるを得ませんが・・・・。

境内社

境内社は３社で、本殿の北側にあり、３棟続き（長屋様）の祠の右から「八坂神社」、「稲荷神社」、「愛宕神社」がそれぞれ祀られています。

これらの神様達は、これまでにも何度も紹介していますが、「八坂神社」は、素戔嗚命（すさのおみこと）、「稲荷神社」は、宇迦御魂（うかのみたま）、「愛宕神社」は、火産霊命（ほむすびのみこと）です。

素戔嗚命（すさのおみこと）は、出雲系の神様の祖ですし、宇迦御魂（うかのみたま）は、穀物の神様で素戔嗚命のお子神様、火産霊命（ほむすびのみこと）は、火をつか
さどる神様です。

境内社の祠は、まだ新しく、屋根は銅板葺きできれいな祠で、神社名も濃い墨のままでした。

私がこの神社を訪れたのは、８月９日、折からの極暑の中で、人影は見当たりませんでした。

ちなみに、今回初出（？）の火産霊命は、別名 火之迦具土（ひのかぐつち）の神とよばれ、伊弉冉命（いざなみのみこと）がお産みになった火の神様です。

伊弉冉命は、火の神をお産みになったため火傷を負われてお亡くなりになり、黄泉の国へいかれます。夫神の伊弉諾命（いざなぎのみこと）は、妻を死に追いやった火之迦具土を殺害したのち、黄泉の国へ伊弉冉命を訪ねる云々・・と、このあたりのことが、古事記の語るところです。

古事記には、このあたりの物語を、次のように記述されています。

原文

『次生火之夜藝速男神、亦名謂火之炫毘古神、亦名謂火之迦具土神。
因生此子、美蕃登見炙而病臥在。

―中略―

伊邪那美神者、因生火神、遂神避坐也。』

訳文

『つぎに火をつかさどる、火之夜藝速男(ひのやぎはやおのかみ)神をお産みになった。この神は別名を火之炫毘古神(ひのかがびこのかみ)ともうされ、また火之迦具土神(ひのかぐつちのかみ)とももうされる。

このお子をお産みになったことが原因で病の床につかれた。

―中略―

伊弉冉神は、火の神をお産みになったことが原因で、ついにお亡くなりになられた。（黄泉の国へ旅立たれた。）』

もちろん、あくまで神話の世界のはなしです。

なお、＜中略＞のところでは、病の折に、嘔吐物や排泄物などからお生まれになった神々のことが書かれています。

もちろん神話ですから信憑性のほどはわかりません。